

【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

私の未来は税と共に

鹿児島市立桜丘中学校

三年 田上 華

「ワクチンの接種通知が届いたよ。」

母が私に言った。それは、中学三年生になった四月のことだった。新型コロナウイルスワクチンをすでに二回受けた私は、三回目の接種券が届いたのだろうと思った。しかし、封筒には「子宮頸がん」と書いてあった。私は母に、子宮頸がんの予防ワクチンって打たないといけないの、と聞いてみた。最近になって小学校六年生から高校一年生相当の女の子が接種できることになったらしい。

私は、あまり注射が得意ではなく、毎回緊張しながら受けている。それで、ワクチンと聞き、正直な気持ち受けたくないな、と気が重くなった。今回私が受け取った通知書を見ると、公費でワクチンが接種できると書いてあった。

昨年、祖母が膝の手術を受けた。長い間膝が痛くて、階段を自分で降りられなくなるまで我慢していた。膝に人工関節を入れる手術で、一ヶ月も入院した。こんなに長く、祖母が入院するのは初めてで、お見舞いにも簡単に行けず、とても心配した。退院して、半年以上経った今は、痛みもなく一人でどこでも行けるようになり、元気に過ごしている。そんな大好きな祖母の姿を見ることができ、私はとても嬉しい。

「税」について調べた時、医療費にも税が使われていることを知って、「税ってすごいな」と思ったと同時に、日本では、高齢化がどんどん進んでいるため、国の医療費の負担はますます増えていくのではないだろうかと心配にもなった。

私は小さい頃からあまり病気にかかったことがなく、小学生になってからは、ほとんど病院に行ったことがない。私のように、健康に過ごしていても、こうして、医療のサービスを受けることができると思った。今まで受けてきた新型コロナウイルスワクチンも公費で受けることができていた。とてもありがたいことだ。

今の私にできることは、なるべく病気や怪我をしないように、今まで以上に健康に気をつけて元気に過ごすことだと思う。また、予防できる病気はワクチン接種をして、気をつけるようにするのも大事ではないかと思う。

「税」と聞くと、なんで払わなければいけないの、と思う人もいるだろう。私もそう思っていた。しかし、このように無料で新型コロナウイルスのワクチン接種を受けられたり、たくさんの方の医療費がからず良い手術を受けられたりするのは、「税」があるおかげである。

私は、これから「税」を払うときは、前向きな気持ちで払っていききたい。そして、日本のためにもっと税を知り、これからの社会をよりよくしていきたい。